

# 特定非営利活動法人 みんな地球の子どもじゃん 沿革

## 1 趣 旨

世界では生活に困窮する子どもたちが大勢います。  
我々では想像がつかない現状の中で生きている子どもたち。  
そういった状況を、現代ではニュースやテレビを通じ情報として目にする時代にはなりました。  
しかしながら、それはごく一部であり、当然全てを知り得るものではありません。それと同時に  
影響力の強いテレビなどの番組で取り上げられ、救済を受けられる子どもたちは  
更にごく一部と言えます。  
報道が終われば、企画が終われば、それらは熱が冷めていくかのように風化していきますが  
現地の子どもたち、それを支える人たちには風化など有り得ません。  
加えて比較的寄付行為というものが、日常的ではない日本という国。  
我々は、この情報化時代の中もっと他の国へ目を向け取り組むべきだと考えています。  
それには、困窮する子どもたちの情報を常に発信すること。  
特に、若い世代へ向け伝えていくことで  
私たち日本人の社会貢献の意識を育てていくべきだと考えます。

私も昔は、慈善事業、社会貢献、ボランティアという言葉に  
耳を傾ける事のない、どちらかといえばそれらに抵抗を感じていました。  
ところが、仕事の関係でインドネシアという国を訪れその意識は大きく変わりました。  
立派なビルの目の前で着るものもままならず物乞いをする子どもたち。  
それを目にし、数回この国を訪れ子どもたちの現状を知ること  
「何もしないこと」に抵抗を感じるようになったのです。

当法人 みんな地球の子どもじゃんは、イラストレーター、フォトグラファー  
ミュージシャン、デザイナー・・・など様々なジャンルのアーティストが賛同、  
参加する NPO 法人です。  
アート、音楽、ファッションというツールを通して  
抵抗なく若い世代へわかりやすい形で発信していくこと。  
そのことを目的として私たち みんな地球の子どもじゃん は発足しました。

私たちは今、インドネシアバリ島の恵まれない子ども、ハンディキャップを  
持った子供たちの学校 YPAC へスクールバスを買おうというプロジェクトを遂行しています。  
送り迎えの手段がなく学校へ行くことが出来ない子供たちがインドネシアには大勢います。  
教育設備の不備から、将来の夢を見いだせない根本の問題もあります。  
私たちのはじめの一步はインドネシアの困窮する子どもたちに手を差し伸べる事です。  
アート、音楽、ファッションの持つ力、アーティスト達の平和への願いの力で  
それが大きな波にきつとなると信じています。  
子どもたちに本当に必要なものは何か・・・音楽やアートといったボーダーの無い世界  
をインドネシアをきっかけに世界へ広げたい、それには特定非営利活動法人とすることが必要と  
感じ、このたび申請する事と致しました。

## 2 申請に至るまでの経過

2005年11月 インドネシア（ジャカルタ～バリ島）を訪れる。

高層ビルの目の前で着るものもままならず物乞いをする子ども達を目にする。  
以来、商材輸入の国であるインドネシアに何か現地へ還元できることはないか  
を探し始める。

2006年 3月 3回目のインドネシア渡航の際  
ジャカルタ～サマラン～ジョグジャカルタ～バリ島と横断し現地の方々より情報収集に努める。

2006年 5月 バリ島 YPAC を訪れる。

名称 YAYASAN PEMBINAAN ANAK CACAT  
住所 Jl. Bypass Ngurah Rai km 30 Jimbaran Bali

YPAC バリは NGO(民間の非営利団体)として 1975 年 10 月 28 日に設立(公正証書 48 番として登録)された。  
所在地はバリ州・バドゥン県・南クタ・ジンバラン。

現地の先生方と打ち合わせ、訪問を重ね通販事業を通じてこの学校に本当に必要なものを  
寄与する活動をスタート。ここで知り得た事実は鉛筆やノートといった文房具は寄付で何とか集まる  
が実際に足りていないものは寄宿する子どもたちの歯磨き粉や洗剤だと言うこと。  
さらに努力の結果得るものがある。という教育の側面も踏まえ、現地の先生方、子供たちも参加する  
事を前提とした「エコバックプロジェクト」を発足。先生方子どもたちがエコバックを作成～通販購  
入者へプレゼントする形で、ただ与えるのではなく現地も参加する支援の形を確立。  
同様に子どもたちとマングローブ植林活動なども主催。

一年に3～4度学校を訪問、洗剤、歯磨き粉他必要な物品を寄与する関係が続き

2008年 10月

この学校において、まだまだ学校へ行きたいが送り迎えの手段がなく学校へ行くことが  
出来ない子どもたちがいる事を知り  
「みんな地球の子どもじゃん」という任意団体を発足。  
多数のあらゆるジャンルのアーティストの賛同を得る。

2009年 8月

その中でファッションとアートをコラボレーションさせ  
若い世代へ支援の輪を広げていくことを目的とした  
「デニムバカ」を発足。アートとファッションを結びつけ各イベントで活動を行う。  
その結果、物販収益より、現在 Y P A C へ一台目のスクールバスを購入。来年（2011年、3月）  
にバリ島にて贈呈式の予定。

2010年 1月

一連の活動を自身で熟慮した結果、この活動を特定非営利活動法人へとすることを決意する。  
テレビなどで学校を建てるなどの模様が流され、皆それぞれに何かをしなければ、という風潮に

現代はあると思います。その中でも今の若い世代の人たちへもっと社会貢献に関心をもってもらいたいと私個人は強く感じています。私はご近所というフィールドの中で育った世代です。人とかかわりがなければ今は無いと、今になって感じています。時代は変わり世界が一瞬でつながる現代において、国内のご近所は消えつつあるも、世界はご近所ではないでしょうか。

無機質な回線の中に、せめて心の通う場所が一つでも、少しずつでも増えていけば、それは私たち日本人の教育にとっても有益な事だと考えます。

しかし、難しいこと嫌う現代、かっこ悪いという風潮の今

影響力の高いアーティスト、表現者として持ち合わせている平和を願う心。

私が一人一人直接会い、アーティストへインドネシアの子どもたちの話をすると

誰もが、全員が関心を持ち、賛同をしてくれました。

そんな表現者たちとであれば、私が続けてきた活動をもっと大きなものに出来るのではないか。

これほどに、皆の賛同があるのであれば、これをバリ島の学校をはじめとし、さらに困窮する世界の子どもたちの支援へと広げることこそが私自身の使命と強く感じ

2010年 9月2日

設立総会を開催し、今日NPO法人申請に至る。